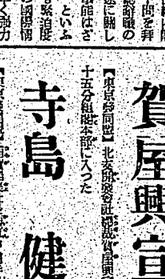
臺灣新民號外
（第二）
昭和十六年十月十七日
編輯兼發行人 江口渙
印刷所 臺北市榮町四丁目三十二番地 日日新報社

東條陸相大命を拜受
組閣順調に進行
組閣本部は陸相官邸

【東京發同盟至急報】 御召に接した東條陸相は十七日午後四時三十分三宅坂の陸相官邸を出で同卅五分宮中に參內した【東京發同盟】十七日午後四時の大命を拜した東條陸相は直ちに組閣本部として宮中に參內した東條陸相は恐懼して暫時の間感激をどり抱つて御前を退き、內大臣府に於て木戸內府と會見の後同五時廿分宮中を出で、同夜は陸相官邸に於て直ちに組閣本部として組閣に着手した【寫眞は陸相官邸に入つた東條陸相】

及川海相を御召
優渥なる御言葉を賜ふ

【東京發同盟至急報】天皇陸下に於かせられては十七日午後四時三十五分東條陸相に對し後繼內閣組織の大命を降下あらせられ、次いで同四時五十分及川海相をも宮中に召させられた



【東京發同盟】天皇陸下の御召に依り參內拜謁仰付られた及川海相は優渥なる御言葉を賜はり恐懼御前を退下し別室にて木戸內府と會見、午後五時二十分宮中を退出、海相官邸に入つた

陸海軍不壞の協調
國民待望の新內閣來る

【東京發同盟】陸軍內閣組織の大命は十七日午後四時三十五分降下

聖斷仰ぎ奉る畏こさ
神嘗祭御親祭の日の大命降下

【東京發同盟】東條中將が陸軍大臣の重大使命を帶びて大命を拜した十七日は神嘗祭當日であり、この朝宮中賢所に於ける天皇陸下御自ら親祭の御儀に御拜禮、御祭儀終らせ給うた、陸海兩相の文武百官等は只感激しかつた、斯くて御儀を終へさせ給へる陸下には續いて御告文の御讀誦了、その午前は御靜かに過ごさせられたが、やがて午後一時から宮中西溜ノ間に於て百官中特に老齡の閣僚を御召あるため本日內閣は四時過ぎ枢機を仰ぎ奉るため本日內閣は四時過ぎ枢機を仰ぎ奉るため本日內閣は四時過ぎ枢機を仰ぎ奉る